

テーマ 「病理検査の基本を学ぼう ～固定について part2～」

主催 病理検査研究班

実施日時：令和3年2月12日（金） 18時00分～19時00分 Web環境

点数：専門教科－20点

講演：「組織の固定－すべての解析の大切な入口

原理からゲノム解析を成功に導く応用的取り組みまで」

講師：宮崎 龍彦 先生（岐阜大学医学部附属病院 病理診断科）

司会：三鍋 慎也（防衛医科大学校病院）

参加人数：会員 53名 賛助会員 0名

出席した研究班班員：岡村卓哉、関口久男、森田繁、荻真里子、細沼佑介、高橋俊介、今村尚貴、小島朋子、三鍋慎也

研修内容の概要・感想など

今回のテーマは「病理検査の基本を学ぼう ～固定について part2～」で、前回は引き続き固定に関する研修を行った。

岐阜大学医学部附属病院の宮崎龍彦先生に「組織の固定－すべての解析の大切な入口 原理からゲノム解析を成功に導く応用的取り組みまで」と題してご講演いただいた。まず固定の「化学固定」と「物理固定」の違いについてご教示いただき、化学固定の仕組みである「架橋」について化学反応式での理解が深まった。また、遺伝子解析に病理標本を用いる場合、DNAやRNAが壊れずに保存されていることが大切となるが、真空浸漬固定や振動を与えながら固定を行うことにより、断片化が抑制されることを、データを示しながらご教示いただいた。基礎的なことから現場での応用に至るまでを具体的にお話していただき大変有意義な講演であった。

今回は病理検査研究班主催の研修会としては初めて Web環境で実施したが、大きなトラブルもなく無事に開催できたことはよかったと思われる。今回の講演から、固定における少しの工夫や一手間が、形態学的にも遺伝子解析にも大きく貢献することがわかった。会員の皆様の施設でも、検査の現場に活かしていただければ幸いである。

（文責：三鍋 慎也）